

桂坂だより

平成28年10月17日
京都市立桂坂小学校
校長 若松 美里

前期 特別号

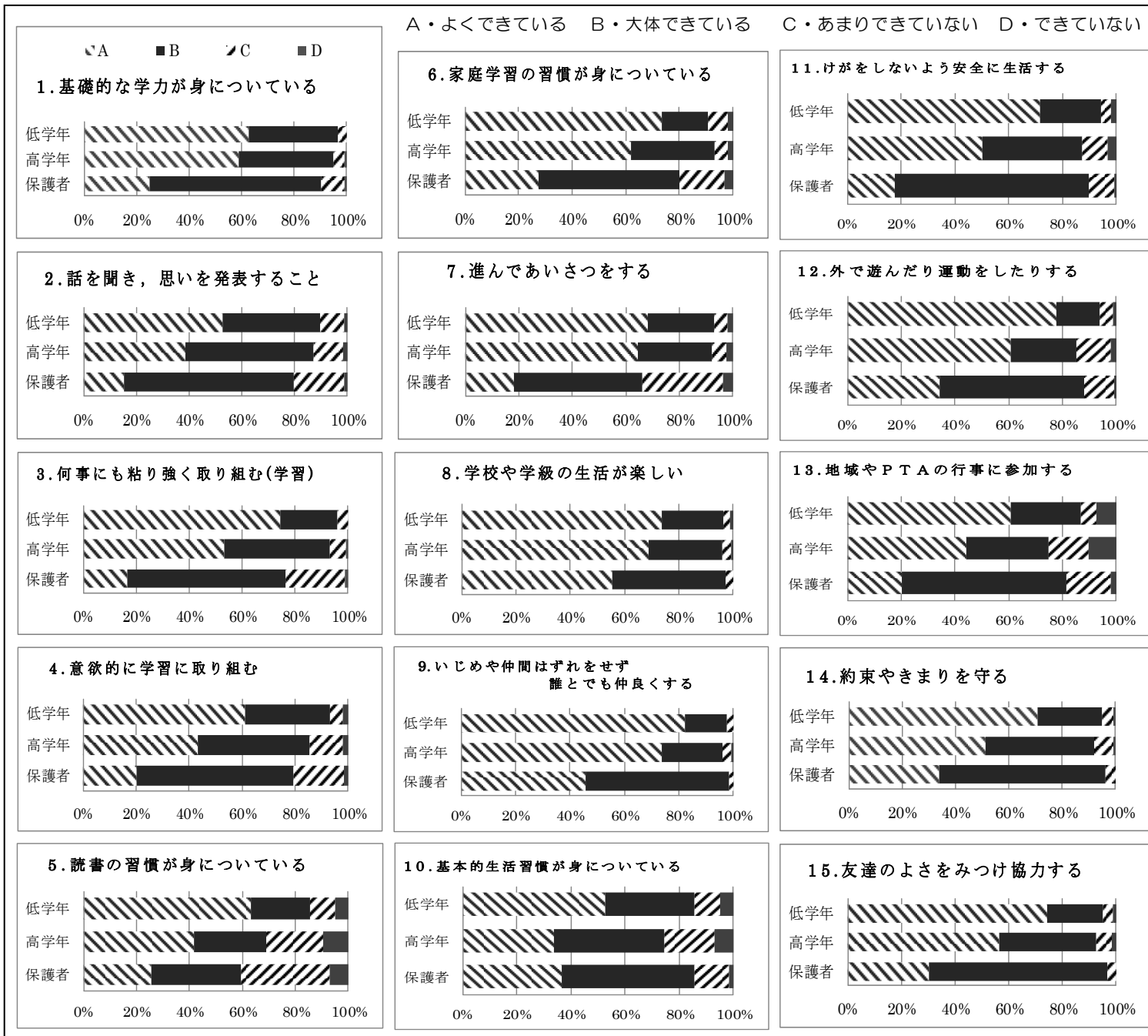
Email:katsurazaka-s@edu.city.kyoto.jp



お忙しい中、学校評価のアンケートにご協力いただきありがとうございました。このアンケートは、子どもたちや保護者、地域の方々の一人一人の声を大切にすると共に、共通認識のもと連携して取組をすすめ、子どもたちの学校生活をよりよいものにすることを目指しています。



学校生活について(ふりかえり)アンケート結果 【前期】【児童・保護者アンケートより】



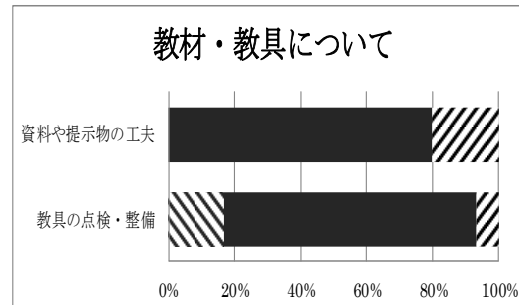
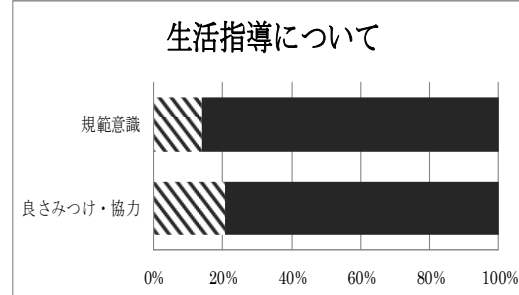
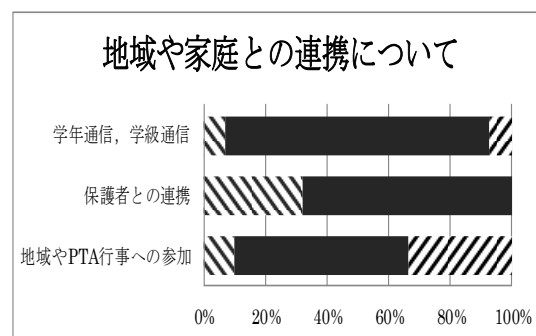
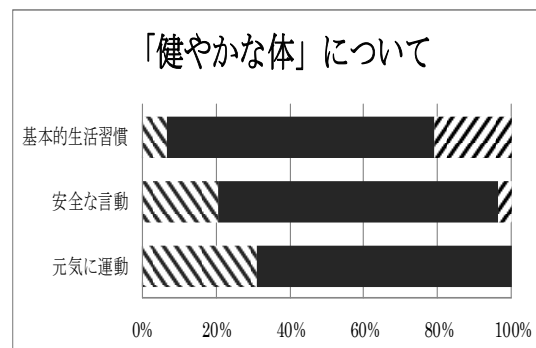
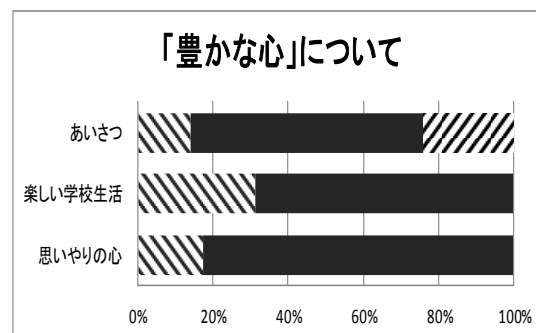
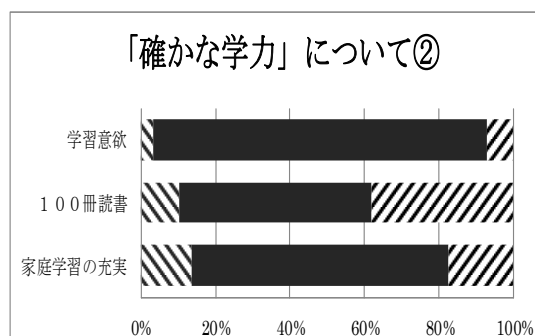
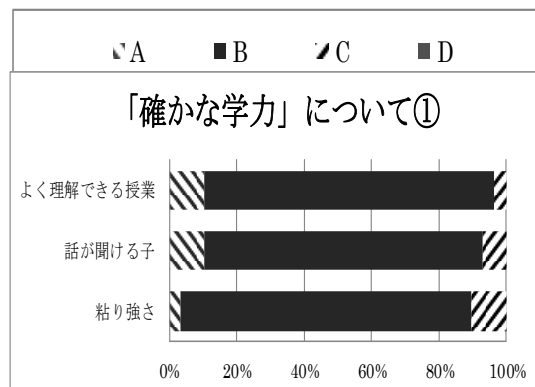
【児童・保護者アンケート結果の考察】

学習に関する項目では「1. 基礎的な学力が身についている」において児童も保護者も一番高い評価が見られました。これは低学年から継続してノート指導に取り組んでいることや「めあて」から「振り返り」までを明確にした授業の工夫に取り組んできた成果だと考えられます。「4. 意欲的に学習に取り組む」においても高い評価が見られていますが、高学年になるにつれて少しずつ評価が下がってきています。高学年になると学習内容が高度になり学力の個人差も見られてきますが、個々の学習意欲を高めるために一人一人の頑張りをしっかり評価し、すべての児童にとって「わかる授業・できる授業」となるような授業の充実を図っていききたいと思います。また「5. 読書の習慣が身についている」については課題がありますが、低学年児童においては昨年度より評価が上がっています。低学年は「朝読書」に重点をおいて取り組んできたり、2年生の教室前に図書コーナーを設置して図書に親しみやすいようにしたりした成果ではないかと考えられます。中学年や高学年の児童も朝読書や図書室での様子を見ると、集中して読書に取り組んでいる児童が多いので、家庭でも進んで読書に取り組めるように働きかけていきたいと思います。さらに読書に関心をもち、それぞれの発達段階に応じた本選びができるようになるために、2年生と4年生に向けてブックトークをしていただくことになりました。

生活に関する項目では「7. 進んであいさつをする」が最重要課題であると考えています。「朝の声かけ運動」では、児童会も参加して取り組んでいる成果もあり、元気よくあいさつをする子が増えています。しかし地域ではまだまだあいさつが出来ていないようです。自由記述に書かれているご意見にも「旗当番をしていて子どもたちがあいさつをしない」という内容が複数ありました。学校全体や各学級で指導をしていますが、今後も児童に積極的なあいさつを推奨していくとともに、学校全体で気持ちのよいあいさつができる集団作りをめざしていきたいと思います。また家庭とも連携を図り、子どもたちが「いつでも」「どこでも」「誰にでも」気持ちのよいあいさつができるように、保護者の方にもご協力をお願いしたいと思います。「8. 学校や学級の生活が楽しい」についてはどの学年も工夫して学級経営に取り組んできた成果が見られています。「いいところみつけ」「みんな遊び」「係活動」等で友達との関わりを深めるとともに、時間や約束を守る等の規範意識を高めるための取組が、安心して楽しい学校生活を送ることにつながっていると思われます。今後も学年の発達段階に応じて、学習や活動内容を工夫して取り組んでいきたいです。

教職員アンケートより

A・よくできている B・大体できている
C・あまりできていない D・できていない



【教職員アンケートより】

教職員は、保護者・児童のアンケート結果を受けて、自己の取組の成果と課題を考察・分析した上で自己評価アンケートを実施しました。結果として教職員が十分に児童の成果を上げられなかった観点において児童・保護者アンケートにおいても課題としてあがってきます。

まず、『確かな学力』の「粘り強さ」「学習意欲」については、特に高学年児童の「4. 意欲的に学習に取り組む」「5. 読書の習慣が身についている」の評価と大に関わる部分があると考えます。学習や読書に対して意欲的に最後まで集中して取り組むことが高学年児童の課題です。その課題解決に向けて分かりやすくめあてを示し、最後まで意欲が継続するような授業や読書活動の工夫に取り組んでいく必要があると考えます。

『豊かな心』の「あいさつ」については保護者の方や地域の方からの声も届いています。学級や学校全体であいさつをする意味をしっかりと教え、気持ちのよいあいさつの仕方について定着できるようにしていきたいと思います。そしてその気持ちのよいあいさつを、地域や家庭でも実践していけるようにしていきたいと考えています。

『健やかな体』の「基本的生活習慣」については、家庭との連携が不可欠でありますので、学年通信や学級通信を通じて保護者の方に必要な情報を発信し続けて、共同で取り組んでいきたいと考えています。

今回の結果を客観的かつ謙虚に受け止め、指導や取組の改善を図り、より一層充実させていきたいと考えています。

9月27日（火）第2回学校運営協議会

（PKF：プロジェクト・カザラッカ・フォレスト）より

「保護者・児童・教職員アンケート」の結果を受けて、学校運営協議会（PKF）で話し合いを行いました。

今回は「進んであいさつをする」の項目がここ数年課題として上がっていることについて、たくさんのご意見を伺いました。学校での「声かけ運動」や「あいさつ週間」の期間は意識も高まりしっかりあいさつできるのですが、取組が終わると定着しない傾向があります。まずは学校で継続して根気強く指導するとともに、教職員も自分から大きな声であいさつし、子どもたちの意識を高めていく必要があると思います。また、地域でもコミュニケーションが十分取れていないという実態があることも関係しているのではないかとご意見をいただきました。例えば、夏休みの「ラジオ体操」では、高学年の子どもの参加が少なく、また参加している子どもからのお礼や感謝の言葉もあまり聞かれないという現状が見られるようです。また、他の場面でも子どもからの「おはようございます」や「ありがとうございます」の言葉も減ってきているのではないかとご話がありました。しかし、「あいさつやコミュニケーション不足は、子どもだけで

なく保護者を含めた大人にも当てはまる課題である。子どものあいさつを定着させるために、まずは大人同士がコミュニケーションをしっかりととり、子どもの手本となるようなあいさつを見せることが大事である」というご意見をいただきました。そして、子どもの自主性に任せるだけでなく、大人の方から子どもに積極的にあいさつの声かけをしていきましょうとお話ししていただきました。すぐに改善が見られなくても、何度も根気強く継続して声をかけ続けていけば子どもの様子にも変容が見られるのではないかと、というご意見でまとめていただきました。保護者や地域と連携を図り、子どもを取り巻く大人が協力しながら気持ちのよいあいさつがいっぱいの学校、地域になるように努力していきたいと思います。

また、「学級や学校の生活が楽しい」の項目では、少数ではありますが評価の低い子どもがいることから、学校に来にくい子どもが一人でもいれば毎日元気に登校できるように学校として全教職員で改善に向けて取り組んでいきたいと思っています。また地域としてもできることを支援していきたいというありがたいご意見をいただきました。

今回いただきました貴重なご意見を受けまして、すべての子どもが楽しいと思える学校の実現を目指して今後も教育活動に取り組んでいきたいと思っています。どうぞ保護者や地域の皆様もご理解ご協力いただきますようよろしくお願いします。